

公園(ふれあい広場)の機能維持

本町は、ふれあい広場の西側隣接地(約3ヘクタール)を公園として拡張した上で、広場内に新野球場を整備することを提案しています。藤崎台県営野球場の大きさ(約2.6ヘクタール)などを参照すると、屋内練習場の整備を含めても、西側隣接地の拡張により、これまでの公園としての広さを確保することが可能と考えます。

また、新野球場は、野球場本体だけではなく、キッチンカーの乗り入れが可能な広場やランニングなどで利用できる動線の整備も想定されているため、ふれあい広場がこれまでに担ってきた散策や憩いの空間としての機能を維持できるものと考えています。例えば、夏祭りについても、野球場と周辺の空間を一体的に活用して、より魅力的なイベントとなるよう計画します。



菊陽町における新野球場のイメージパース



提案内容を記者会見で説明する吉本町長

新野球場の提案について、よくある質問と回答

Q 県民総合運動公園周辺エリアは提案せず、新駅周辺1カ所だけを選んだ理由は？

A 主な理由は3点です。1点目は、FSEとの連携により民間の知見などをいかした提案が可能となったこと。2点目は、富士フィルムの協力により、ふれあい広場の機能を維持し、新野球場の整備が可能となったこと。3点目は、「守るべき農地をしっかりと守ってほしい」との町民の声に応えることができることです。

Q 野球場を整備することにより農地への影響はあるのか？

A 本町では、守るべき農地は守るという考え方を基本としています。そのため、ふれあい広場を拡張して野球場を整備することで、基盤整備されている優良農地への影響が無い計画を県へ提案しています。

Q 県民総合運動公園周辺エリアは提案しなかったが、南部地域の発展をどのように考えているか。

A 南部地域の発展については、重要な課題と認識しています。昨年3月に改訂した都市計画マスタープランで、南部地区における市街地ゾーンの整備や新設道路の整備について明確に位置付けており、こうした事業を着実に実施し、責任を持って推進していきます。

Q 町の負担が大きいのではないか。

A 本町は、民間企業の知見や資金を活用し、県および町の財政負担の最小化を目指します。具体的には、野球場の整備・運営事業者が野球場本体だけではなくホテルや商業施設などの附帯施設を整備し、その収益を野球場の整備・運営に還元する仕組みを提案しています。

※県は、当初秋ごろを目途に移転先を決定することとしていましたが、令和8年熊本地震により当面年内は移転先の選定作業を凍結する旨を発表されました(今後の対応は復興状況を踏まえ検討)。

熊本県新野球場の移転候補地に関する提案を行いました

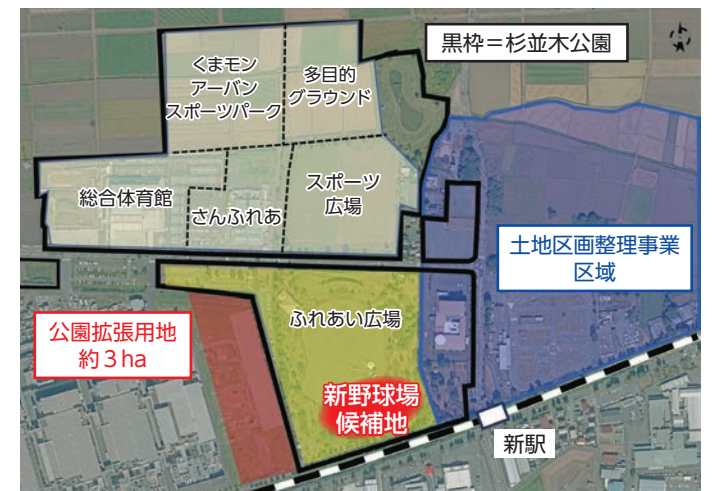
☎ 総合政策課 ☎096(232)2112

7月24日、本町は、JR三里木駅と原水駅の間に整備する新駅に近い菊陽杉並木公園内のふれあい広場を候補地として、プロ野球チーム「北海道日本ハムファイターズ」の本拠地の運営などを行っている「(株)ファイターズ スポーツ&エンターテインメント(FSE)」と連携し、熊本県新野球場の移転候補地に関する提案を行いました。

提案候補地について

提案候補地は、新駅を中心とした土地区画整理事業周辺(新駅周辺)としています。土地区画整理事業では、新駅周辺を賑わいエリアと位置付け、ホテルや商業施設などを整備する計画です。また、近隣には、今年オープンした「くまモンアールスポーツパーク」などのスポーツ施設を集約しており、多様な主体による交流や賑わいの創出が期待できます。

これは、県が求める条件の「駅近・街中」に合致しており、新たな市街地の整備を進めている菊陽町だからこそできる提案です。



新駅周辺1カ所に絞った理由

これまで、本町では、県民総合運動公園周辺と新駅周辺を候補地としていましたが、以下の理由から、最終的には、新駅周辺1カ所の提案を行いました。

- ① 「エスコンフィールド HOKKAIDO」の整備・運営や、その周辺の都市開発を一体的に企画・実現してきたFSEが参画を表明したこと。
- ② ふれあい広場の西側に隣接する富士フィルムマテリアルマニュファクチャリング(株)の協力を頂いたことで、ふれあい広場を拡張することにより、これまでの公園の機能を維持し、新野球場を整備することが可能となったこと。
- ③ 「守るべき農地をしっかりと守ってほしい」との町民からの強い声に応えることができること。

候補地のアピールポイント

① 新野球場の需要創出と県全体への波及効果の最大化

提案候補地は、野球場単体ではなく、土地区画整理事業地内に新たに整備する施設や、近隣のスポーツ施設・温泉施設などとの一体利用が可能であり、「スポーツ・交流・観光・賑わい」が融合したボールパークを形成することが可能です。日常的な利用から大規模イベントまで、幅広い場面で高い集客力を発揮し、交流人口の拡大や地域経済への波及効果の最大化を図ることができます。

② 将来の広域交通ネットワークによる渋滞対策と利便性の向上

中九州横断道路と接続する合志インターチェンジ・アクセス線(仮称)の整備、新駅の整備、空港アクセス鉄道とJR豊肥本線との接続などにより、渋滞への対応はもちろんのこと、県内外からのアクセスも飛躍的に向上します。このことによって、広域的な集客力が高まり、長期的な需要の拡大が期待できます。

③ 守るべき農地を守る

都市計画マスタープランに位置付けた守るべき農地をしっかりと守る事を前提に、町有地を最大限に活用し、隣接の企業からの協力を得ることで、守るべき農地を転用することなく、野球場を整備することができます。